

「東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会」 ニュースレター 第02号

協議会事務局（中部地方整備局河川部）
平成 18 年 12 月 28 日発行

【第2回作業部会結果報告】

- 開催日時：平成 18 年 12 月 21 日（木）13:30～17:30
- 開催場所：名古屋市中区三の丸 桜華会館 「松の間」「梅の間」「蘭の間」
- 参加人数：80名



第2回作業部会全体会議の様子

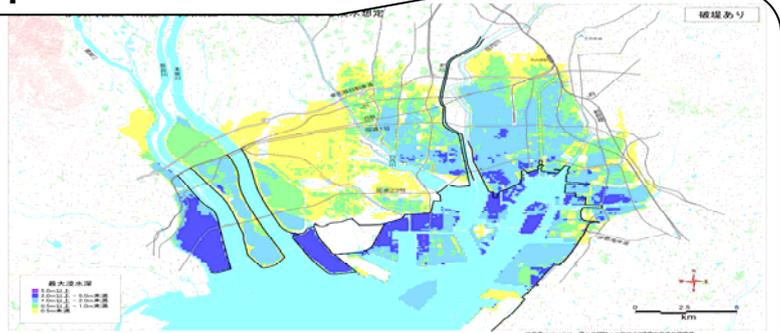


展示された「伊勢湾台風時の被害写真」

■想定しているスーパー伊勢湾台風とは？

本協議会で想定している高潮災害は、スーパー伊勢湾台風クラスの超大型台風による浸水被害です。スーパー伊勢湾台風とは、過去に日本を襲った既往最大の台風である室戸台風（上陸時 910hPa）が濃尾平野に最も大きな被害をもたらすコースをとった場合を想定したものです。

なお、今後、高潮災害のほか、地震や河川氾濫の影響による複合災害も検討していきます。



上図出典：中部地方の天変地異を考える会

■第2回作業部会参加組織

陸上自衛隊第10師団、東海農政局、中部経済産業局、中部近畿産業保安監督部、中部地方整備局、国土地理院中部地方測量部、中部運輸局、名古屋地方气象台、岐阜県、愛知県建設部、三重県、名古屋市、海津市、愛西市、弥富市、七宝町、甚目寺町、大治町、蟹江町、飛鳥村、桑名市、木曾岬町、川越町、名古屋港管理組合、四日市港管理組合、中日本高速道路㈱、中部電力㈱、東邦ガス㈱、中部地区LPGガス連合会、西日本電信電話㈱名古屋支店、㈱NTTドコモ東海、日本放送協会名古屋放送局、日本赤十字社愛知県支部

＜オブザーバー＞

第四管区海上保安本部、岐阜県警察本部、愛知県防災局、愛知県警察本部、（社）中部経済連合会

■第2回作業部会の概要(その1)

1. 全体会議

統括ファシリテータである中部地方整備局の細見河川部長より、開会の挨拶がありました。また、事務局から第1回作業部会の結果や第2回作業部会の進め方、提供資料について説明しました。

2. 分科会 ※分科会の作業結果は最後のページに記載

Aグループは、名古屋大学大学院の戸田祐嗣助教授を迎え、被害想定に関すること、Bグループは、中部大学の武田誠助教授を迎え、情報伝達と水防活動に関すること、Cグループは、愛知工業大学の小池則満助教授を迎え、広域避難支援と救助・救難活動に関して議論しました。



Aグループ(被害想定)のワークショップの様子



Bグループ(情報伝達・水防活動)のワークショップの様子



Cグループ(広域避難支援・救助活動)ワークショップの様子

■ 第1回作業部会の概要(その2)

3. 分科会とりまとめ会議&ウォッチング

総括ファシリテータ、各分科会ファシリテータ・司会、発表者による分科会とりまとめ会議を行い、各分科会（A、B、Cグループ）の結果を整理しました。（分科会の作業結果は、ニュースレターの最後のページに記載）

分科会とりまとめ会議を行っている一方で、各作業部会メンバーは、ウォッチングとして、過去の災害記録映像「NHK 20世紀日本 大災害の記録」から東海地方を襲った地震や洪水・高潮を中心に全国で起きた災害を視聴しました。



分科会とりまとめ会議の様子



ウォッチングの様子

4. 全体会議

整理された各分科会報告（ワークショップの結果）について、各分科会の代表者から発表が行われ、メンバー全員に分科会での作業内容（議論した内容、次回以降の議題、他グループへの要望など）が共有されました。

最後に、愛知工業大学の小池先生から、総括を頂き、「カトリーナ級の超大型台風が伊勢湾を襲った場合のイメージがだいぶ掴めてきており、新しい防災の思想、計画が芽生えつつあると思う。次回も活発な議論をお願いしたい。」と講評されました。

また、総括ファシリテータである中部地方整備局の細見河川部長から、「最終的なアウトプットをどういう形式で公表すべきか議論して欲しい。広域避難の意思決定について、どういう形で情報提供すれば一番いいのかを考え、議論して欲しい。また、被害がでなければ動けないというのが、今の災害に対する取り組みであるが、被害の恐れがある場合に、どう対応できて円滑な救助等が可能かについても議論して欲しい。」と結ばれました。



愛知工業大学の小池先生による講評



総括ファシリテータの細見河川部長による講評

■各分科会(ワークショップ)の作業結果

	■議論した項目	■次回以降のテーマと宿題
A グループ (被害想定)	<p>○各施設管理者の運用停止基準について</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾岸自動車道に関しては高架橋方式なので、風速等による基準はあるが、高潮等水災に関する規制・基準はない。 各ライフラインに関しては、浸水高に対する運用停止基準はない。可能な限り供給を続ける。 <p>○長期的な浸水など時系列を考慮した被害について</p> <ul style="list-style-type: none"> し尿処理が不潔になることによる感染症の拡大のおそれ 復旧には排水が重要であるが、そのためには堤防復旧・排水機場の機能確保が必須 <p>○想定外力について</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の浸水深を決めないと議論進まない 高潮災害の外力についてイメージを膨らませる 例えば、1m、2m などそれぞれのピッチで浸かったらといった観点でイメージを膨らませる <p>○被害のグルーピングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「市民」の観点での被害が少ない 時間軸を与える 	<p>○次回以降のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回、リストアップした被害をグルーピングし、各被害の関連性(因果)についても提示する。 グループ内に関連するカテゴリーに分けたサブグループを作る。 <p>○次回までの宿題</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的なイメージがわくように、最悪の浸水(高潮+洪水)1ケースを示す。
B グループ (情報伝達・水防活動)	<p>○前回までの議論の追加検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回までは、災害時の情報を浸水・高潮・避難情報に分類する必要があり、それらを事前・事中・事後に整理したほうがよいことを検討した。 追加として考えられる問題点 <ul style="list-style-type: none"> >水防活動再検討(地下街、洪水時・高潮時の違い) >広域避難情報 >事前情報(行政として): 避難所の開設、避難勧告情報 <p>○水防活動の再検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> 水防活動を行ううえで、各市町村の対応や連絡体制について議論し、高潮時にどのような対応を行えばよいか議論した。 <p>○避難場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難場所の受け入れ体制について、各市町村の実態を聞きながら、実際に活用するにあたっての問題点を議論した。 <p>○広域避難情報について</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和34年伊勢湾台風時の実態を踏まえて、広域避難の必要性やその対応策について議論した。 	<p>○次回以降のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報伝達: 理想的な情報のルート図(情報元も含めた)を完成。 どんな水防活動ができるか、水防活動の課題について議論。 <p>○次回までの宿題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各市町村の水防活動を行うにあたっての情報伝達方法の実態を調査する。(洪水・高潮) 各市町村で決められている避難場所等に関する体制を調査する。 <p>○グループCへの要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域避難は集団での避難になる、その輸送方法は? 広域避難場所は今回の協議会に参加していない自治体へ逃げていくことになる。将来的には具体的に検討する必要あり。
C グループ (広域避難支援・救助)	<p>○広域避難の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域全体の概算避難人員が70万人。災害の規模がとてつもなく大きいため、事前の広域避難を考えなければ対応不能。 <p>○トリガーの意思決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難勧告等、誰が意思決定するのか、トリガーの問題あり。 大きなトリガーを引くには、意思決定ができるようなデータ整理が必要。 市毎に行う避難はあっても、市をまたがる避難までは考えていない。 県も避難勧告等がなければ事前に動ける状態にはない。 実際の避難には、県や警察、自衛隊の連携を図らなければならない。 <p>○災害弱者への対応の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 名古屋市内全域で要介護者は21万人(災害時の要援護者は60万人)もいる。命をどのように繋ぐか、対応が必要。 病院で浸水を想定して設備を整えているところもあるが、事前に災害弱者への対応を考えているところは見当たらない。 <p>○移動手段等の問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> トリガーの問題が解決したとして、実際に逃げられるのか、現実性のある広域避難計画を立てる必要あり。 移動手段をどうするか、渋滞の問題や、マイカーの問題等、現実に沿ったプランを考えなければならない。 できる限り広域避難をしたとしても逃げない人がいる。高台への避難やゴムボート、ヘリ等の利用が必要。 公の避難所を用意する必要あり。条例で2階建ての建物を作る必要を定めている場合あり。 都市計画の中でやっていただいているものがあるが、キャパが耐えられるか、否か、広域避難とあわせて考えていかなければならない。 	<p>○次回以降のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害が発生する前に、その被害を想定することにより、被害を最小限に留める体制作りについて議論。 <p>○グループBへの要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難のための意思決定ができる、正確なデータと情報を如何に早く出せるか?